



### 色川三郎兵衛と色川三中

市民の皆さんには、色川三郎兵衛(英俊、1841～1905)がよく知られています。色川家は代々、薬種販売や醤油醸造を営む商家でした。英俊は千葉県の生まれで、色川家の娘やいと結婚して色川姓になりました。また、川口川閘門の建設や常磐線の敷設に尽力し、衆議院議員として、政界でも活躍しました。

今回紹介するのは、英俊の妻やいの祖父に当たる三中(1801～55)です。三中は号で、通称は英俊と同じ三郎兵衛を名乗り、家業のかたわら国学を研究しました。平成28年1月、三中の日記や来翰集、肖像、国学の草稿などが、茨城県指定文化財になりました。さらに令和2年12月には、和歌集や草稿など10件が追加されました。

### 黒船情報の収集

追加資料には新発見の「片葉雑記」1・4巻および、浦賀の調査記録「片葉雑集 紀行部」上・下巻が含まれています。

「片葉雑記」は、三中の名を一躍有名にした資料です。嘉永6(1853)年に来航した黒船(アメリカ力船)の様子や国内の混乱を、友人や親戚からの手紙や街道を行き来する人から聞いてまとめました。「片葉」とは、葉っぱ1枚程度、つまり、わずかな物のたとえです。手紙や旅人のうわさなど、少しばかりの手がかりも記録に残そうとした

## 色川三郎兵衛「片葉雑記」

### 黒船情報を集めた土浦の町人

のは、黒船の情報を幕府が統制し、庶民には伝わらないようにしていたからです。

「片葉雑記」は、2・3・5・6巻が、中井信彦著「片葉雑記 色川三中黒船風聞日記」(慶友社/昭和61年)として刊行され、町人が収集した黒船情報として高い評価を得ています。新発見の「片葉雑記」にはどのようなことが書かれているのか、三中が見た黒船騒ぎの姿を紹介します。

土浦藩の検地・仙台藩領の増税(嘉永6年6月9日)

黒船で大騒ぎしているのに、土浦藩は増税のために検地をしようとしている。増税とはとんでもない。土浦藩ばかりか仙台藩でも御用金を課して、石高1万石につき2500両も出せという話だが、これも驚きだ。

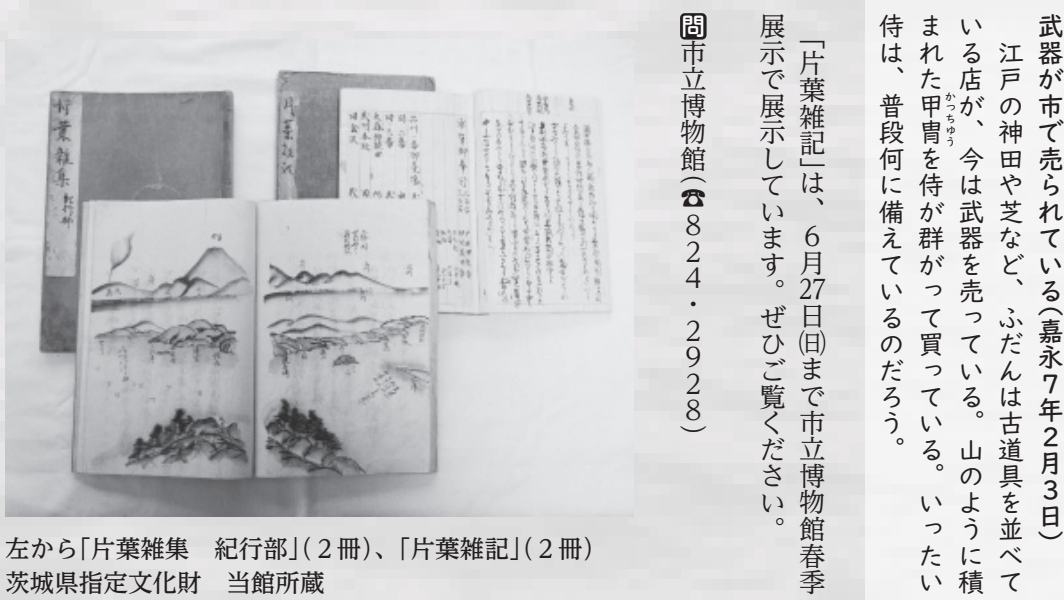
サザエやアワビを売りに来る(嘉永6年6月10日)

江戸への水路が閉じられ、房州(千葉県南部)産のサザエやアワビなどを江戸へ運ぶことができな

い。このため、土浦近辺へ大量に売りにきている。浦賀では、黒船4艘がお台場からおよそ5町(およそ550メートル)沖合に停泊している。相州(神奈川県)・房州の海岸へは大名が防衛配備され、漁ができない漁師もいる。

農民の困苦(嘉永6年6月11日)

海防のため、侍が500～600人も大筒や武器、火薬を運んでいる。農繁期を迎えているのに、農民は軍役に駆り出され、難儀している。



左から「片葉雑集 紀行部」(2冊)、「片葉雑記」(2冊) 茨城県指定文化財 当館所蔵